

マギル大学での研修を終えて

文教育学部人文科学科 1年 水澤有奈

1. はじめに

私は、7月30日から8月26日までのおよそ1カ月、カナダのマギル大学へ短期留学に行きました。もともと、自然豊かなカナダに憧れを抱いており、また留学先となるマギル大学は、カナダ屈指の名門大学であることも後押しし、カナダのマギル大学に決めました。

マギル大学への留学が今年度からということもあり、渡航前の準備が、とても大変でした。というのも、行き帰りの航空券や海外保険を全て、自分で用意しなければならず、また渡航日も各自で決めて行くといったものでした。渡航前に、マギル大学の責任者と何通ものメールをやり取りし、無事に参加することが出来ました。

また、お茶大からの参加者が少ないということも、大きな特徴だと思います。今回の参加者は私を含めて2人でした。初めは、不安だったものの、現地では、日本人で固まらず、積極的に行動することができ、友達の輪も大きく広がりました。もちろん、途中、心が折れそうになった時は、一緒に行った先輩にとっても助けられました。

2. プログラム内容

クラス：事前テストによる細かいスコア分けがされ、20人弱の少人数制グループであるため、先生との距離も近く、非常に充実したものとなりました。グループワークの機会も与えられ、また、同年代ばかりなので、発言もしやすかったです。授業での議題は、主にカナダの文化についてであるため、決して観光だけでは学ぶことのできない（カナダの税金やコミュニタというカーシェアリングカンパニーなど）カナダの生活について学ぶことができました。また、そこで学んだことを午後のアクティビティで、実際に訪れたりするために、より理解が深まります。

午後のアクティビティ：アクティビティといっても、モントリオールの観光巡りです。クラスを6人グループ×3に分け、1グループ（6人）に1人の現地学生がついてくれるので、英語で話す機会がとても豊富になりました。初日から、私たちの名前や趣味、専攻を覚えてくれたりと、一気に距離が縮まりました。学生ならではの、リアクションや人気のお菓子といった、本場の文化に触れられた気がします。

レジデンスでの生活：およそ10人強のグループに分けられ、1グループに1人のモニターが付いてくれます。朝食と夕食を共にするため、家族のような仲になります。モニターはとても面倒見がよく、聞き取りやすい英語で話してくれたり、本当に優しくかったです。最後のフェアレールパーティーでは、グループごとに出し物をするため、その練習をするごとに、さらに、仲が深まっていきました。

3. 学習成果

英語力に関して、もちろんどちらかと言えば上がりましたが、そんなことよりも、自分の英語力の低さに対する危機意識が生まれたことがとても大きい成果だと感じます。他大の日本人学生との出会いを通じて、学歴に関係なく英語を話せる人は話せると感じ、焦りを覚えました。このまま学歴に甘えるのではなく、学生生活をどう過ごすかが本当に大事になってくると感じました。

初めは、少しでも多く、英語を話す機会を持つとガツガツとモニターに話しかけていましたが、徐々に、英語力向上の為ではなく、単に、人と人として話したいという感情になっていきました。モニターと仲良くなるにつれて、自分の言いたいことの言えないもどかしさ、話が続かない悲しさが、より募っていきました。

ホームステイでは、ホストファミリーが本当に良くしてくれて、英語学習に関するたくさんのアドバイスをいただきました。full（お腹いっぱい）やMexico（メキシコ）が通じなかったりと多くのショックを受け、コミュニケーションへの積極性がもちろんのこと、発音の向上の必要性を実感しました。

4. 現地の文化

モントリオールは、非常に素敵なところでした。クリーンで、自然豊かなうえ、経済も発展しており治安も良く、気候的にも過ごしやすい（ただ夏限定のよう）。フランス語圏のケベック州に属していることもあり、少し行けばヨーロッパの街並みになります。

また、非常にエコな国でした。自転車専用道路や、自動ドアが極端に少ないなど、もっと細かい点も含めて、日本が見習うべきいくつかを発見しました。

そして何より様々な人種が共存していて、2か国語以上話せるのが普通であることにとっても驚きました。将来の話をする時、必ずどこの国で働きたいかという話になり、良い刺激を受けました。ベジタリアンの多さやホームレスの多さ、素直に人を褒める点など、きりが無いほど、日本との違いを実感し、日本を客観視する良い機会となりました。

5. おわりに

今回の短期留学は、本当に、私を大きく変えてくれました。

全く異なるバックグラウンドを持つ人と話すことは、自分の今まで見えてなかった部分にも目を向けさせてくれ、とても面白かったです。例えば、日本のサラリーマンの平均年収やクレジットカードの利子率など、常識を含め、日本のことをもっと学ぶ必要があると気が付きました。

また、他大の日本人学生による刺激を得られたことも大きかったです。将来の具体的な職業は、未定ですが、学生中に幅広く教養と語学力を身につける決意をしました。今回、この留学を支援してくださった皆様に、心より感謝を申し上げます。